

本学に蓄積された学術成果の発信 / 学芸員養成課程と学内外の研究活動の連携

## 企画展「伝統文化は誰のもの？」

### 「文化資源をめぐる協働を考える」を開催

～11月1日(土)には公開シンポジウムを開催～

首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループは、企画展「伝統文化は誰のもの？—文化資源をめぐる協働を考える—」を、南大沢キャンパス 91年館にて開催します。本研究グループの取り組みとして第6回目となる本企画展では、日本とアメリカの先住民作家による作品を主な題材に、芸術作品におけるオリジナルと模倣・複製との関わり、そして文化的資源の利用と管理（とくに先住民の知的財産の共有と協働）をめぐる諸問題を考えます。本企画展は学外の専門家の協力と本学学芸員養成課程の学生の参加を得て実施し、11月1日（土）にはシンポジウムを開催します。

企画展、シンポジウムとも、観覧・参加費無料、申込不要ですので、ぜひ、ご参加ください。

#### 企画展・シンポジウム「伝統文化は誰のもの？—文化資源をめぐる協働を考える—」 概要

##### ○ 企画展

- ◆ 会 期 平成 26 年 10 月 31 日（金）～11 月 13 日（木） 11:00～17:00 ※会期中無休
- ◆ 会 場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91 年館（京王相模原線「南大沢駅」徒歩約 5 分）
- ◆ その他 観覧無料

##### ○ シンポジウム

- ◆ 日 時 平成 26 年 11 月 1 日（土） 14:00～17:00
- ◆ 会 場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91 年館 「多目的ホール」
- ◆ その他 参加無料、申込不要 ※ 会場定員 100 名（先着順）



米国南西部先住民ホピの人々が作ったジュエリーと鷹作  
「オリジナル（ホンモノ）はどれでしょう？デザインは類似していますが制作者が異なります」

企画展及び公開シンポジウムの詳細は、別紙資料をご覧ください

<お問合せ・取材申込先>

首都大学東京 91 年館 学芸員養成課程展示室  
電話：042-677-1111（内線 2041）

企画展・シンポジウム

## 伝統文化は誰のもの？ —文化資源をめぐる協働を考える—

伝統文化は誰のものか。誰のものでもない共有物なのか。あるいは特定の誰かのものなのか。これらは、地域固有の文化を素材とする作品について、制作・利用・管理主体のありかを考えるための問いです。今日、先住民の知的財産権という論点をはじめとして、地域固有の文化に根差した知的資源の管理について様々な角度から議論されています。本企画展・シンポジウムは、世界各地の最近の動向を紹介しつつ、エスニックアートの市場や博物館での資料展示においての、地域固有の文化的資源の利用と管理をめぐる諸問題を考えます。シンポジウムでは、以上に関連する論点として、知的・創造的活動における「オリジナル」と「コピー」との関係についてもあわせて議論します。芸術作品においては、学術的論文と同じく、作者個人の独創的・創造的な知的活動に価値が求められていて、一般的にはオリジナルの模倣や複製は認められていません。しかし、ある文脈においては、模倣や複製がオリジナルとの対話、あるいはオリジナルへの深い関与にむけた貴重な手がかりとなる場合もあります。そうした場合でのオリジナルに対する模倣・複製は、単なるコピーあるいは<sup>ひようせつ</sup>剽窃の問題として、そのネガティブな側面のみで語ることはできません。シンポジウムでは、以上のような問題について、日本国内の身近なテーマにひきつけて考えていきます。

### 基本情報

#### ■企画展

- ◆ 会 期 平成26年10月31日（金）～11月13日（木）※会期中無休
- ◆ 時 間 11:00～17:00 ※観覧無料
- ◆ 会 場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館 京王相模原線「南大沢駅」下車 徒歩約5分
- ◆ 主 催 首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ
- ◆ 展示内容
  - ①「ホンモノ？ニセモノ？——『ホビ製』宝飾品の真作贋作」……米国南西部先住民ホビの人々がつくったジュエリーと贋作を含めた関連資料
  - ②「先人の手あと、未来への手あと」……博物館に収蔵されている古いアイヌ資料（民具）を現代のアイヌ工芸作家が複製するなかで生み出した作品と関連資料
  - ③「文化資源の共有と協働」……アジア・アフリカ諸国における学術研究活動において本学教員がとりくんでいる文化資源の共有と協働の試みについての関連資料

#### ■シンポジウム

- ◆ 日 時 平成26年11月1日（土）14:00～17:00
- ◆ 会 場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館 多目的ホール  
定員100名・参加無料・事前申し込み不要
- ◆ パネリスト 伊藤 敦規（国立民族学博物館研究戦略センター助教）  
山崎 幸治（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）  
蘭 巳晴（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社研究員）
- ◆ コーディネーター 石田 慎一郎（首都大学東京人文・社会系准教授）
- ◆ 主 催 首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ
- ◆ 共 催 日本文化人類学会関東地区研究懇談会

首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ

## 企画展の特色 ～ これまでの企画展等について ～

首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループは、本学所蔵の標本・資料類および基礎科学分野の研究成果について発信するための連携体制・拠点の構築を目指しており、平成24年度より年2回企画展を開催しています。これまでに生命科学分野、考古学分野（平成24年度）、日本史学分野、地形・地質学分野（平成25年度）、インダストリアルアート分野（平成26年度）の企画展を実施し、今回の企画展「伝統文化は誰のもの？ —文化資源をめぐる協働を考える—」は第6回目の開催となります。

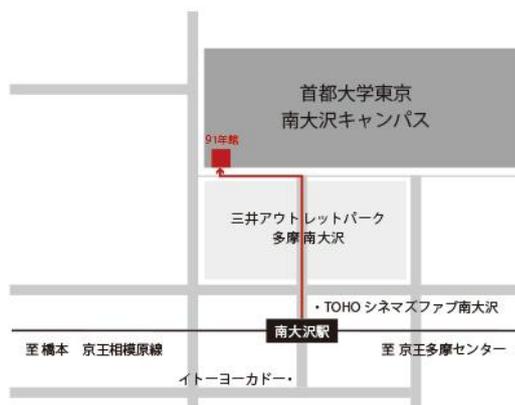
本展示の特色の一つとして、「研究・教育の成果の公開」が挙げられます。展示の制作には、平成26年度「博物館実習Ⅰ」をとおして、本学の学芸員養成課程の学生も参加します。

企画展の他にも、常設展示として、本学南大沢キャンパス91年館「学芸員養成課程展示室」では、本学内の7つの分野（日本史学、動物系統分類学、植物系統分類学、地形・地質学、考古学、社会人類学、芸術学）が保有する研究資料・標本類をご覧いただけます。本学の所在する東京・多摩地区に密着した研究成果から、世界各国の話題に至るまで、最新の研究成果を親しみやすく紹介しています。

## 会場までのアクセス

### 交通アクセス

京王相模原線「南大沢駅」下車徒歩約5分  
※一般車両の駐車場はございませんので、公共交通機関にてお越しください。



### 周辺案内

南大沢駅改札口を出て右手奥に南大沢キャンパスが見えます。

正門の手前で左折、130m程進むと91年館です。大学構内には入らずにお越しいただけます。

首都大学東京 91 年館 学芸員養成課程展示室 <http://www.comp.tmu.ac.jp/gakugei/index.html>

研究代表者 山田 昌久（教授 所属：人文科学研究科 文化基礎論専攻 歴史・考古学教室）  
本企画展責任者 石田 慎一郎（准教授 所属：人文科学研究科 社会行動学専攻 社会人類学教室）